

令和4年度薬学教育自己点検・評価結果

(1) 令和4年度卒業時アンケートの集計データ分析

薬学部においては、学生の卒業に際し、4年間又は6年間の薬学教育をとおして、自身が身に付けることができた知識、技能及び能力について、アンケート形式で自己評価をしてもらい、アンケート結果は、薬学科（表1-1）と創薬科学科（表1-2）を区別して集計した。回収率は薬学科88.9%（63名中56名）、創薬科学科84.0%（50名中42名）であった。

なお、アンケートでは学生に、「1：十分身に付けることができた」、「2：ある程度身に付けることができた」、「3：あまり身に付けることができなかった」、「4：全く身に付けることができなかった」の4つの選択肢から1つを選んでもらうこととしており、薬学教育自己点検・評価においては、1及び2の選択肢を選んだ場合「身に付けることができた」、3及び4の選択肢を選んだ場合は「身に付けることができなかった」として判断した。

< 1. 全学共通項目（表1-1、表1-2、図1、図2） >

薬学科の学生（表1-1、図1）については、前年度のアンケートで「身に付けることができた」と評価した学生の割合が80%以上であった項目1）「課題や問題を自ら解決する能力」、2）「組織や社会の一員として責任を持って行動する能力」、3）「他者と協力し合うコミュニケーション能力」、8）「専門教育による深い専門知識・技能」、9）「幅広い知識、深い専門知識・技能の修得により、社会で活躍できる能力」のうち、1）～3）、8）については90%以上、9）についても87.5%が「身に付けることができた」と評価しており、これらの項目の達成満足度はより高い結果となった。また全ての項目で「身に付けることができた」と評価した割合が昨年度よりも増加しており、特に、4）「口頭発表、説明、討論などのプレゼンテーション能力」（「身に付けることができた」と評価した割合80.3%）、7）「教養教育等による幅広い知識」（同75.0%）、及び10）「地域を志向する意識（富山を通して、地域社会における諸課題を理解し、貢献しようとする意識）」（同60.7%）については、昨年度よりもそれぞれ12.0、16.4、19.3ポイント増加した。これは、新型コロナウイルス感染症の収束が進み、コロナ禍以前と同様の教育手法が可能となったことが影響していると考えられる。一方、これまで同様、5）「母語以外の外国語（英語など）の語学力（聞く、話す、読む、書く）」（同42.9%）と、6）「国際的な視点で考えることや国際的な感覚」（同37.5%）の2項目については、他の項目と比較して満足度が低く、グローバル化に対応するための教育に課題が残されているものの、どちらの項目も昨年度と比較して8ポイント以上上昇しており、回復傾向がみられた。この結果は、一昨年度から実施している卒業論文発表の英語表記化など、英語能力の向上を目指した各取組が実を結び始めていることを示すものと考えられる。

創薬科学科の学生（表1-2、図2）については、薬学科における結果と傾向は同じであるが、薬学科と比較すると、ほとんどの項目において達成満足度が低い傾向にあった。こ

れは例年と同様であり、修了年限の長さの違い（6年と4年）に起因していると考えられる。昨年度と比較し、おおよそ満足度の変化はないものの、4）「口頭発表、説明、討論などのプレゼンテーション能力」（同71.4%）、9）「幅広い知識、深い専門知識・技能の修得により、社会で活躍できる能力」（同76.2%）、10）「地域を志向する意識（富山を通して、地域社会における諸課題を理解し、貢献しようとする意識）」（同66.7%）の項目については、昨年度からそれぞれ11.4、8.7、14.2ポイント上昇しており、回復傾向がみられた。一方、1）「課題や問題を自ら解決する能力」（同83.3%）、3）「他者と協力し合うコミュニケーション能力」（同83.3%）、8）「専門教育による深い専門知識・技能」（同81.0%）については高い達成満足度であるものの、昨年度よりもそれぞれ11.7、6.7、6.5ポイント低下した。しかしながらこれら3つの項目に関しては、「1：十分に身に付けることができた」と評価した割合が昨年度と比較してそれぞれ18.7、20.6、11.1ポイント上昇していることから、一概に達成満足度が低下したとは言えないと考えられる。昨年度の教育内容との変化に注目し、今後も引き続き高い満足度を得られるような教育を実施していく必要がある。

< 2. 薬学部独自項目（表1-3、図3、図4） >

卒業時アンケートにおいては、全学共通項目に加え、薬学部の各学科に特化した内容の項目について、学科別にアンケート調査を実施した。

薬学科では（表1-3、図3）、医療や薬剤師に関連する項目として挙げた12）「健康と疾患に対する洞察力」（同91.1%）、13）「薬剤師業務に関する基本的技能」（同91.0%）、14）「薬物療法の実践および公衆衛生の向上に寄与する能力」（同83.9%）の全てにおいて高い達成満足度が示されており、また15）「本学の教育が今後の進路決定に役立った」とする回答も80.4%に達していた。これらはここ数年、高い値のまま推移していることから、6年間の薬剤師養成教育が適切に実施されており、学生の達成満足度が良好であることが示された。

創薬科学科では（表1-3、図4）、12）「自然現象に対する知的好奇心・探求心」（同78.5%）、13）「創薬科学に関する幅広い学識と実験技術等」（同81.0%）、14）「医薬品創出に取り組むために必要な創造的思考力」（同69.0%）について、良好な達成満足度が示されており、また15）「本学の教育が今後の進路決定に役立った」とする回答も76.2%であったことから、4年間の薬学研究者養成教育が適切に実施され、学生の達成満足度も良好であると判断できる。しかしながら、14）の評価はここ数年70%前後で頭打ちとなっている。創薬科学科の学生に対し、創薬研究者として必要な素養を高める、より専門性の高い教育を提供することが今後の課題である。

以上、令和4年度卒業時アンケート分析結果から、薬学科と創薬科学科ともに、学生達のディプロマ・ポリシー達成度は概ね適正な水準に到達しているものと評価した。また、新型コロナウイルス感染症の収束が進み、令和5年5月には感染症法上の位置付けが2類から5類に引き下げられたことから、コロナ禍以前の教育手法を取り入れながら様々な要因を勘案しつつ、今後の推移を注視していく必要がある。また、語学教育を含めたグローバル化に対応するための教育や、研究者としての素養を高めるための教育については、さ

らに高いレベルで実行するための方策を、今後も継続的に検討していくことが必要である。

（２）令和４年度における修学状況データ分析

＜１．学年別在籍状況（表２－１）＞

薬学科と創薬科学科の両方において、いずれの学年においてもストレート在籍率が84%以上となっており、例年と同様に、留年者等の過度な発生状況はない。

＜２．学年別進級率（表２－２）＞

薬学科の令和４年度データでは、全学年において進級率95%以上と高水準となっていることから、休学・退学・留年者数は、適正な範囲内と判断される。令和元年度において４年次生の進級率が82%と大きく低下したが、その後改善され、令和４年度４年次生の進級率は98%であった。このことから学生に対するフォローアップが適正に行われていると判断できる。

創薬科学科の令和４年度データでは、全学年において進級率が83%以上となっており、また平成30年度以降５年間に渡り同程度の水準が維持されていることから、休学・退学・留年者数は、概ね適正な状況といえる。なお、毎年１年次生の１割程度が留年しており、進級率が他学年と比較してやや低い傾向がある。教養教育の理系基盤教育科目を担当する教員らと連携し、原因の究明と改善のための対応策についてさらに検討する必要がある。

＜３．卒業状況（表２－３）＞

薬学科は、卒業率100%を継続しており、令和４年度ストレート卒業率も88%と、例年と変わらない高いレベルを維持している。

創薬科学科は、令和４年度で卒業率98%、ストレート卒業率84%となっており、過去５年間を含め卒業状況に大きな変化はないが、令和３年度と比較して上昇している。

以上、令和４年度における修学状況データ分析結果から、現状の学生受入れ水準設定やカリキュラム編成、成績評価は、両学科ともに適正に機能していると評価した。

（３）様々な社会状況を踏まえた、教育研究上の目的および３ポリシーの妥当性の検証

今回の自己点検・評価から、新たな項目として、様々な社会状況を踏まえた、教育研究上の目的および３ポリシーの妥当性の検証を行うこととした（令和４年度第４回薬学部教授会（R4.7.20））。

近年の医療の高度化や医薬連携の強化という薬剤師を取り巻く環境の変化の中で、高度な社会的要請に応えられる博士人材を増やすことを目的として、博士課程への進学意欲を持った人材を受け入れる総合型選抜制度を令和４年度入学者選抜（令和３年度実施）から薬学科に導入した。これに対応するため、薬学科のアドミッション・ポリシーの修正を令和３年度に実施した（令和３年度第４回薬学部教授会（R3.7.28））。

薬剤師の地域偏在が問題化する中、富山県でも病院や製薬企業で働く薬剤師が不足している状況の改善を求める声に応じて、本学薬学部では令和４年度に薬学科定員の増加を含

めた大幅な学部改革を実施した。これにより薬学科の定員は15名増の70名、創薬科学科は15名減の35名とした。この定員変更に伴う試験別募集定員の変更を令和4年度入学者選抜（令和3年度実施）から行った。また令和4年度以降入学生の教育カリキュラムも大幅に見直しを行った。これらの変更に応じて、薬学科及び創薬科学科のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの修正を令和3年度に実施した（令和3年度第4回薬学部教授会（R3.7.28））。

富山大学ではアドミッションポリシーの様式を全学的に統一し充実化する方針が示され、薬学部でもこの方針に合わせて修正を実施することが了承された（令和4年度第9回薬学部教授会（R4.12.21））。

先述の富山県内の薬剤師不足解消のための新たな対応策として、富山県内高校出身者を対象とした総合型選抜（地域枠）を実施する方針を決定し、それに対応する3ポリシーの改正と、地域枠入学生に対する地域創生型カリキュラム、及び入学前特別教育プログラムの策定を行った（令和4年度第11回薬学部教授会（R5.2.8））。

以上、薬学部では社会状況に応じた改革を実施するとともに、3ポリシーの修正を実施してきた。したがって現在の教育研究上の目的および3ポリシーは妥当なものであると言える。

（４）ディプロマ・ポリシー達成度評価の現状と今後について

本件の自己点検・評価を行うにあたり、薬学部のディプロマ・ポリシー達成度評価システムの構築と学生へのフィードバック体制について、全学で進めている「学修成果可視化のためのレーダーチャート導入」方針を活用することとし、その進捗状況の確認・点検と、改善策について検討を行った。

<科目ごとの重み付け係数の設定と検証（図5、図6）>

薬学部のディプロマ・ポリシーに掲げられている5項目（幅広い知識、専門的学識、問題発見・解決力、社会貢献力、コミュニケーション能力）を能力項目として設定し、評価対象科目ごとにそれぞれの項目の重み付け係数を設定するように、科目担当教員に依頼があった（令和3年度第3回薬学部教授会（R3.6.16））。次いで、提出された重み付け係数に基づいて、全科目の総和から各学科のレーダーチャートを試験的に表示してみた（令和3年度第4回薬学部教授会（R3.7.28））。

令和3年度前学期の成績確定後、学務情報システムの設定を行い、試行的運用としてGPA中央値に近い学生6名を抽出して、積算能力評価のレーダーチャートを出力した（令和3年度第7回薬学部教授会（R3.11.17））。

これらの試行運用の結果、以下のような問題点が認められた。

- ・理系基盤など特定科目以外の教養科目を「幅広い知識」に設定したが、妥当なのか。
- ・薬学部では専門科目単位数が多いため絶対数が大きい。またそれら科目では専門分野の知識や技能の比重が必然的に大きいため、各項目の絶対積算数の評価では偏った分布となった。それらと横並びで、社会貢献などの重み付け係数を設定することは的確

な評価に繋がるのか。

- ・幅広い知識の7-8割は教養科目が占めており、幅広い知識、専門的学識に偏った結果が得られた。

これらの問題点を改善するため、以下のような方策が提案された（令和3年度第13回薬学部教授会（R4.1.26））。

- ・各能力項目の具体的な内容について細分化を行い、複数の観点から重み付けを行えるようにする。これにより、割合の低く出ている能力項目にも、重み付けができるようになる。
- ・どのような科目でも、軽重はあれども、5項目すべての要素にかかる内容が含まれているものと考え、係数がゼロの項目はなくす。
- ・小数点以下2位まで設定を可能とする。
- ・各学科における卒業までの履修モデルを定め、標準的なレーダーチャートを出力して、それとの比較により学生のレーダーチャートを評価するものとする。

<重み付け係数の再設定と標準的なレーダーチャートの改善（図7）>

これらの考えに基づき、令和4年8月末を期限として、各科目の重み付け係数の再設定を、科目担当教員に依頼した（令和4年度第4回薬学部教授会（R4.7.20））。そして、更新された重み付け係数と履修モデルに基づいて、両学科の標準的なレーダーチャートを出力した（令和4年度第7回薬学部教授会（R4.11.16））。

専門的学識がやや大きく出る形ではあるものの、初期のレーダーチャートの歪さは改善されたものと判断し、これを令和4年度版の標準的なレーダーチャートとした。なお、この標準的なレーダーチャートは、履修モデルとした科目を全て修得した状態としているため、卒業時点（4年次または6年次）を想定した形である。

<レーダーチャートの活用方針>

令和5年度から、定期的実施している学生面談の中で、レーダーチャートを用いて学生の学修状況の振り返りを実施する方針である。なお、学生カルテの閲覧権限を下記のとおりとすることとした（令和4年度第12回薬学部教授会（R5.2.15））。

- ・現1～3年（研究室配属前）：学部長，教務委員長，教務副委員長，クラス担任
- ・現3～6年（研究室配属済）：所属研究室の指導教員（代表教員）

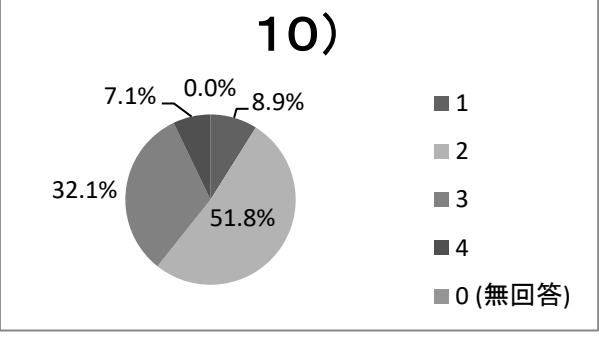
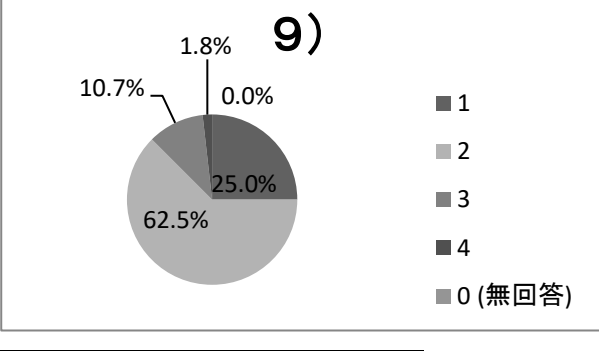
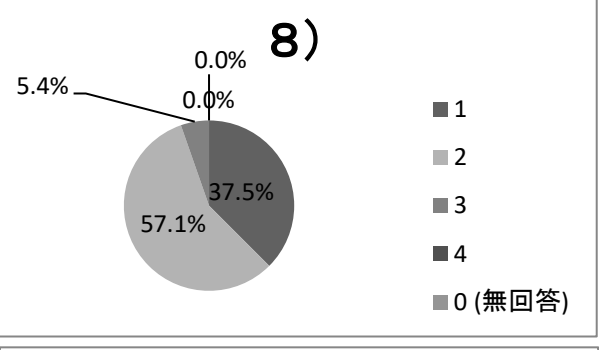
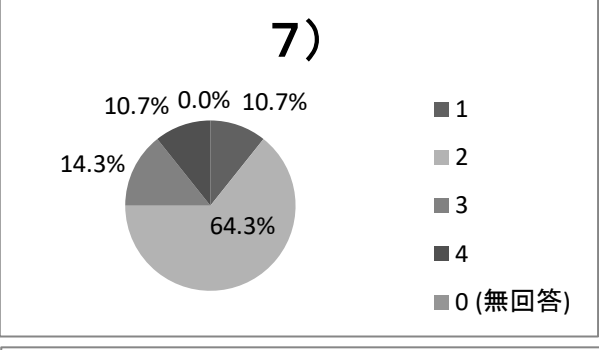
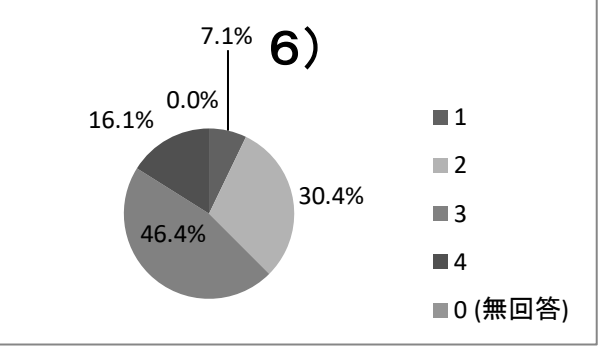
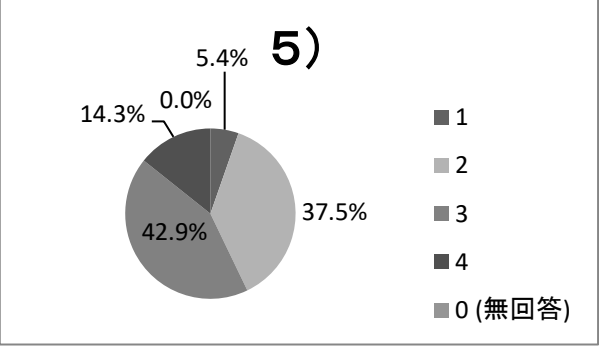
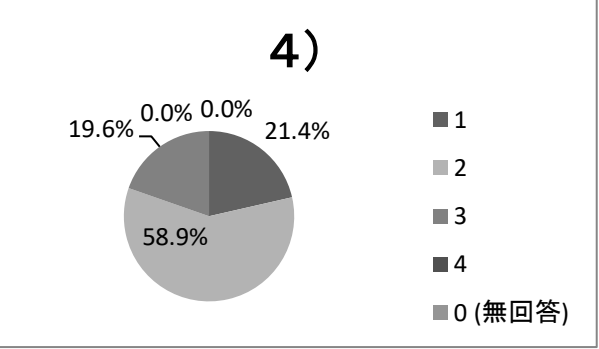
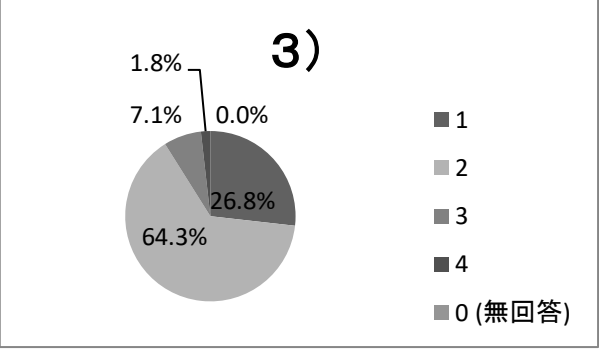
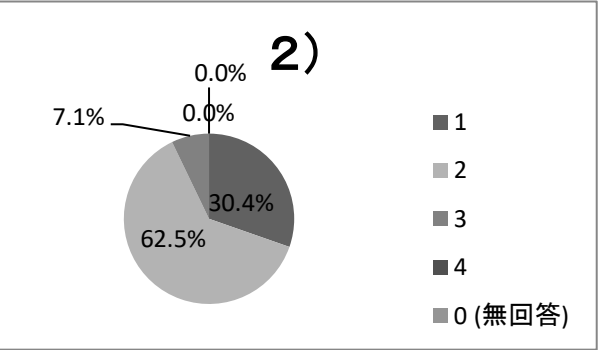
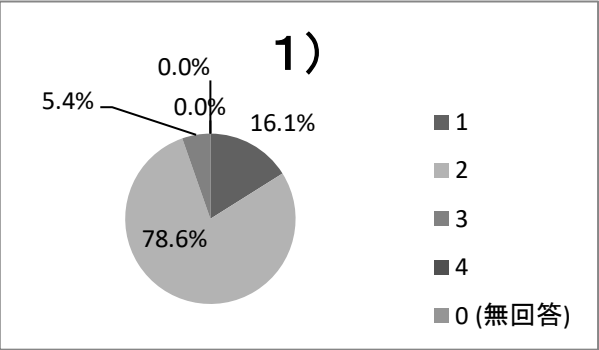
※1～3年について、令和5年度入学生からはなんでもQ&A教員（代表教員）を追加

以上、ディプロマ・ポリシー達成度評価の方法として、「学修成果可視化のためのレーダーチャート導入」を活用する方針にて、現状の点検とその結果に基づく改善を実施した。今後は、必要に応じて重み付け係数の見直しを定期的実施するとともに、各能力項目の細分化内容の達成度を評価するため、ルーブリック評価を併用するなどの検討が必要と考えられる。

【表1-1】卒業時アンケート集計(全学・薬のみ集計)

在学時に、以下の能力等をどの程度身につけることができたと思いますか。

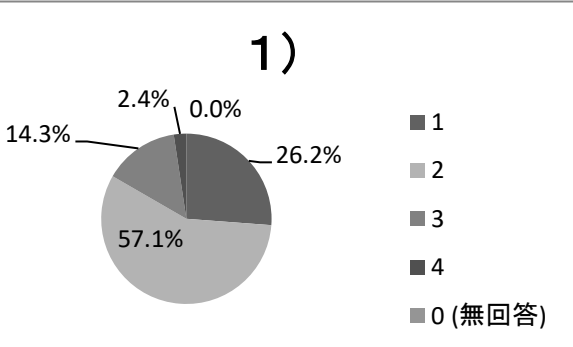
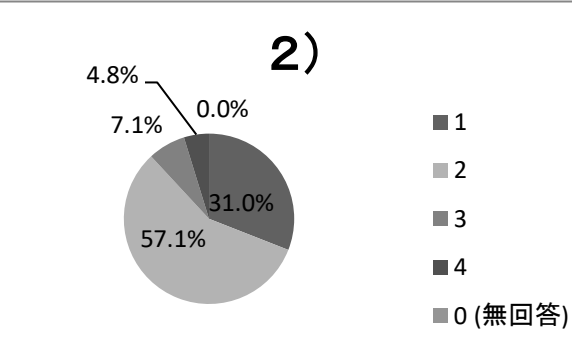
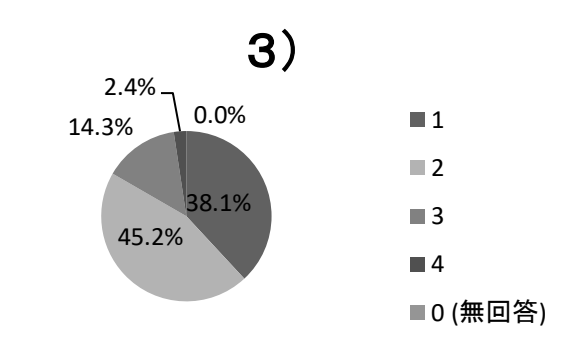
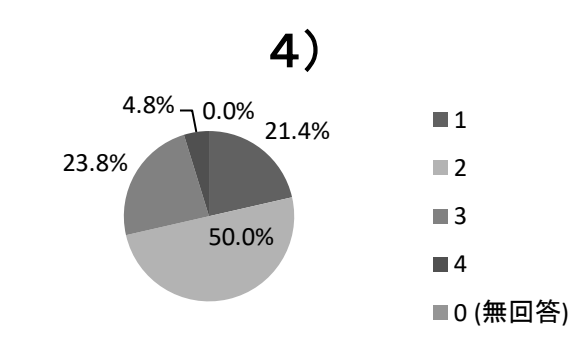
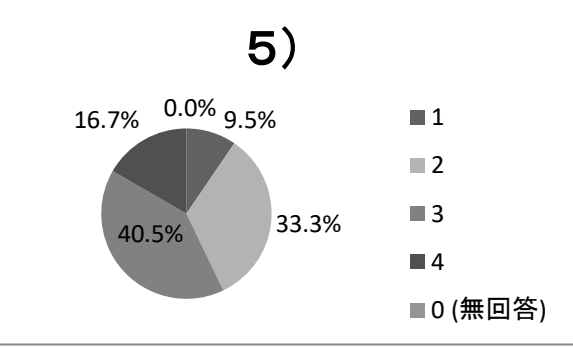
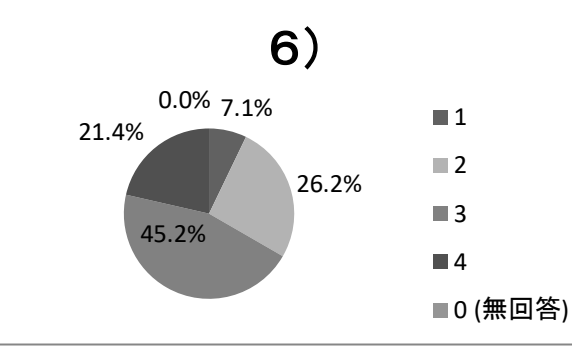
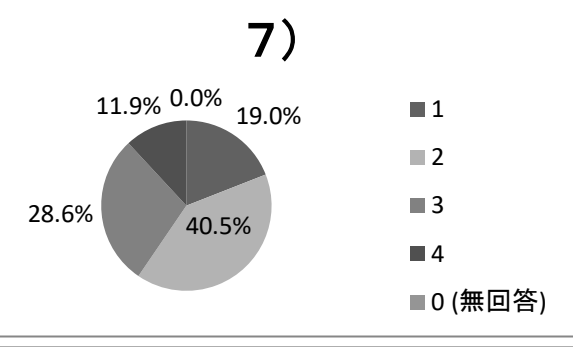
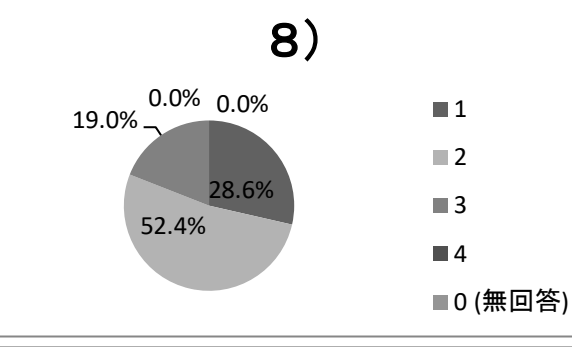
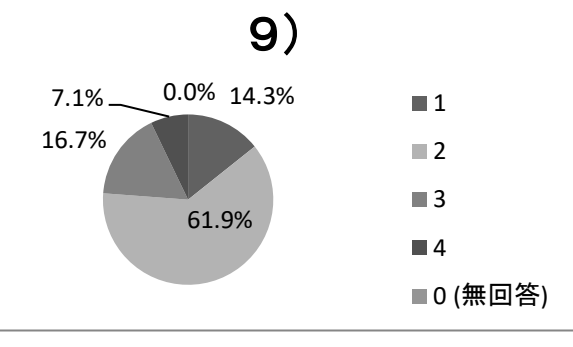
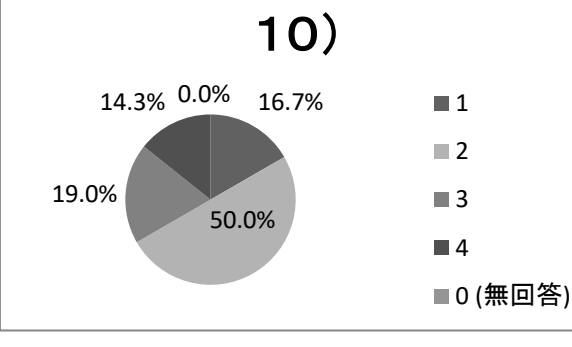
アンケート項目		選択肢	2022	比率
1)	課題や問題を自ら解決する能力	1	9	16.1%
		2	44	78.6%
		3	3	5.4%
		4	0	0.0%
		0 (無回答)	0	0.0%
2)	組織や社会の一員として責任を持って行動する能力	1	17	30.4%
		2	35	62.5%
		3	4	7.1%
		4	0	0.0%
		0 (無回答)	0	0.0%
3)	他者と協力し合うコミュニケーション能力	1	15	26.8%
		2	36	64.3%
		3	4	7.1%
		4	1	1.8%
		0 (無回答)	0	0.0%
4)	口頭発表, 説明, 討論などのプレゼンテーション能力	1	12	21.4%
		2	33	58.9%
		3	11	19.6%
		4	0	0.0%
		0 (無回答)	0	0.0%
5)	母語以外の外国語(英語など)の語学力(聞く, 話す, 読む, 書く)	1	3	5.4%
		2	21	37.5%
		3	24	42.9%
		4	8	14.3%
		0 (無回答)	0	0.0%
6)	国際的な視点で考えることや国際的な感覚	1	4	7.1%
		2	17	30.4%
		3	26	46.4%
		4	9	16.1%
		0 (無回答)	0	0.0%
7)	教養教育等による幅広い知識	1	6	10.7%
		2	36	64.3%
		3	8	14.3%
		4	6	10.7%
		0 (無回答)	0	0.0%
8)	専門教育による深い専門知識・技能	1	21	37.5%
		2	32	57.1%
		3	3	5.4%
		4	0	0.0%
		0 (無回答)	0	0.0%
9)	幅広い知識, 深い専門知識・技能の修得により, 社会で活躍できる能力	1	14	25.0%
		2	35	62.5%
		3	6	10.7%
		4	1	1.8%
		0 (無回答)	0	0.0%
10)	地域を志向する意識(富山を通して, 地域社会における諸課題を理解し, 貢献しようとする意識)	1	5	8.9%
		2	29	51.8%
		3	18	32.1%
		4	4	7.1%
		0 (無回答)	0	0.0%
11)	本学での学生生活で得られたこと, あるいは得られなかったことについて, 意見がありますか。 → 自由記述としたため別紙			



1. 十分身に付けることができた 2. ある程度身に付けることができた
3. あまり身に付けることができなかった 4. 全く身に付けることができなかった

【表1-2】卒業時アンケート集計(全学・創薬のみ集計)

在学時に、以下の能力等をどの程度身につけることができたと思いますか。

アンケート項目		選択肢	2022	比率		
1)	課題や問題を自ら解決する能力	1	11	26.2%	1)  ■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 0 (無回答)	2)  ■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 0 (無回答)
		2	24	57.1%		
		3	6	14.3%		
		4	1	2.4%		
		0 (無回答)	0	0.0%		
2)	組織や社会の一員として責任を持って行動する能力	1	13	31.0%	3)  ■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 0 (無回答)	4)  ■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 0 (無回答)
		2	24	57.1%		
		3	3	7.1%		
		4	2	4.8%		
		0 (無回答)	0	0.0%		
3)	他者と協力し合うコミュニケーション能力	1	16	38.1%	5)  ■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 0 (無回答)	6)  ■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 0 (無回答)
		2	19	45.2%		
		3	6	14.3%		
		4	1	2.4%		
		0 (無回答)	0	0.0%		
4)	口頭発表, 説明, 討論などのプレゼンテーション能力	1	9	21.4%	7)  ■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 0 (無回答)	8)  ■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 0 (無回答)
		2	21	50.0%		
		3	10	23.8%		
		4	2	4.8%		
		0 (無回答)	0	0.0%		
5)	母語以外の外国語(英語など)の語学力(聞く, 話す, 読む, 書く)	1	4	9.5%	9)  ■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 0 (無回答)	10)  ■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 0 (無回答)
		2	14	33.3%		
		3	17	40.5%		
		4	7	16.7%		
		0 (無回答)	0	0.0%		
6)	国際的な視点で考えることや国際的な感覚	1	3	7.1%		
		2	11	26.2%		
		3	19	45.2%		
		4	9	21.4%		
		0 (無回答)	0	0.0%		
7)	教養教育等による幅広い知識	1	8	19.0%		
		2	17	40.5%		
		3	12	28.6%		
		4	5	11.9%		
		0 (無回答)	0	0.0%		
8)	専門教育による深い専門知識・技能	1	12	28.6%		
		2	22	52.4%		
		3	8	19.0%		
		4	0	0.0%		
		0 (無回答)	0	0.0%		
9)	幅広い知識, 深い専門知識・技能の修得により, 社会で活躍できる能力	1	6	14.3%		
		2	26	61.9%		
		3	7	16.7%		
		4	3	7.1%		
		0 (無回答)	0	0.0%		
10)	地域を志向する意識(富山を通して, 地域社会における諸課題を理解し, 貢献しようとする意識)	1	7	16.7%		
		2	21	50.0%		
		3	8	19.0%		
		4	6	14.3%		
		0 (無回答)	0	0.0%		
11)	本学での学生生活で得られたこと, あるいは得られなかったことについて, 意見がありますか。 → 自由記述としたため別紙					

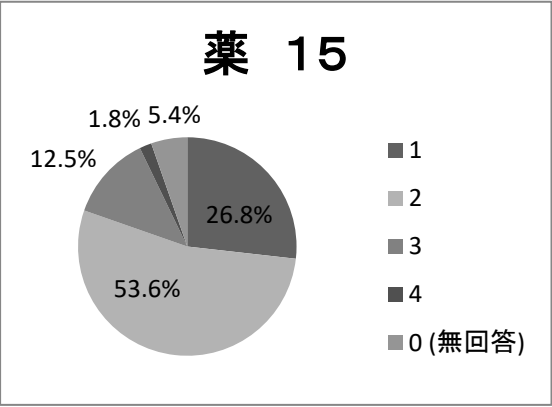
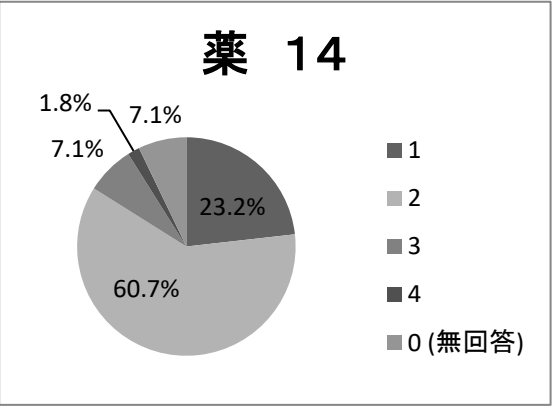
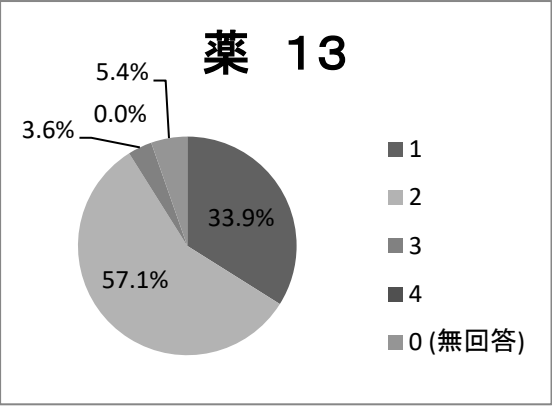
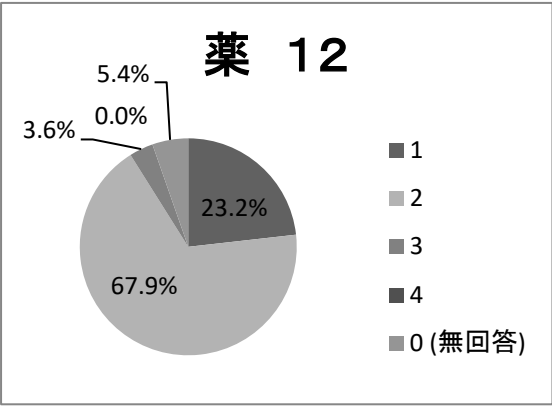
1. 十分身に付けることができた 2. ある程度身に付けることができた
3. あまり身に付けることができなかった 4. 全く身に付けることができなかった

【表1-3】卒業時アンケート集計(薬学独自)

薬学科

アンケート項目		選択肢	2022	比率
12	健康と疾患に対する洞察力を身に付けることができましたか	1	13	23.2%
		2	38	67.9%
		3	2	3.6%
		4	0	0.0%
		0(無回答)	3	5.4%
13	薬剤師業務に関する基本的技能を身に付けることができましたか	1	19	33.9%
		2	32	57.1%
		3	2	3.6%
		4	0	0.0%
		0(無回答)	3	5.4%
14	薬物療法の実践および公衆衛生の向上に寄与する能力を身に付けることができましたか	1	13	23.2%
		2	34	60.7%
		3	4	7.1%
		4	1	1.8%
		0(無回答)	4	7.1%
15	本学の教育が今後の進路決定に役立ったと思いますか	1	15	26.8%
		2	30	53.6%
		3	7	12.5%
		4	1	1.8%
		0(無回答)	3	5.4%

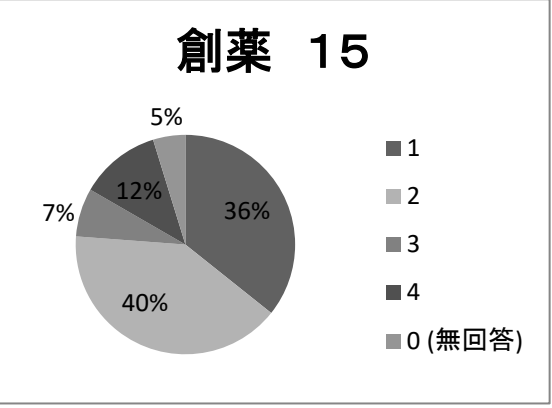
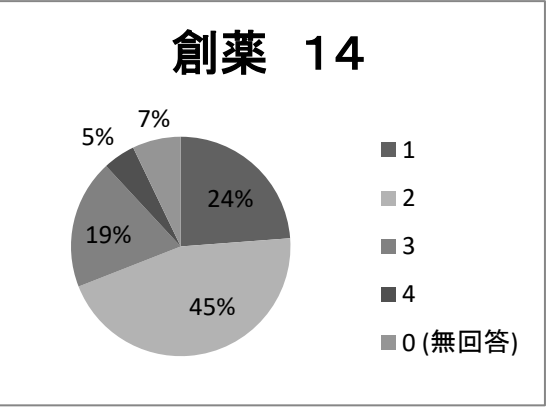
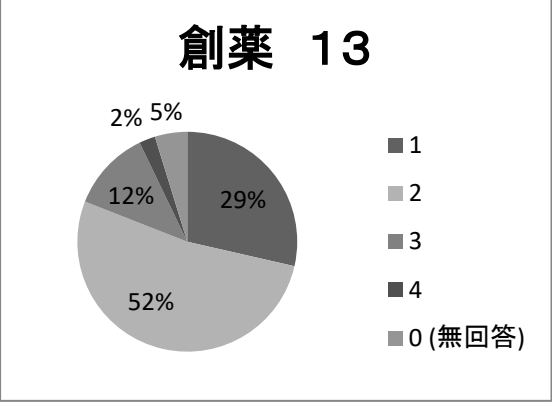
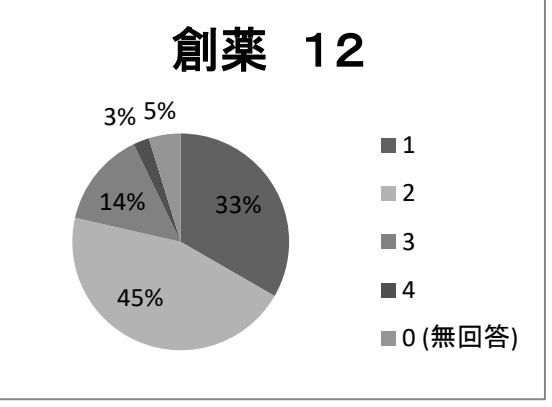
1. 十分身に付けることができた 2. ある程度身に付けることができた
3. あまり身に付けることができなかった 4. 全く身に付けることができなかった



創薬科学科

アンケート項目(創薬科学科)		選択肢	2022	比率
12	自然現象に対する知的好奇心・探求心を身に付けることができましたか	1	14	33.3%
		2	19	45.2%
		3	6	14.3%
		4	1	2.4%
		0(無回答)	2	4.8%
13	創薬科学に関する幅広い学識と実験技術等を身に付けることができましたか	1	12	28.6%
		2	22	52.4%
		3	5	11.9%
		4	1	2.4%
		0(無回答)	2	4.8%
14	医薬品創出に取り組むために必要な創造的思考力を身に付けることができましたか	1	10	23.8%
		2	19	45.2%
		3	8	19.0%
		4	2	4.8%
		0(無回答)	3	7.1%
15	本学の教育が今後の進路決定に役立ったと思いますか	1	15	35.7%
		2	17	40.5%
		3	3	7.1%
		4	5	11.9%
		0(無回答)	2	4.8%

1. 十分身に付けることができた 2. ある程度身に付けることができた
3. あまり身に付けることができなかった 4. 全く身に付けることができなかった



【表2-1】R5年4月における学年別在籍状況

(薬学科)

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学時の学生数(A)		72	70	58	55	59	60
R5年4月時の在籍学生数(B)		72	73	59	53	63	56
過年度生の数(C)	留年による者	0	3	4	2	6	4
	休学による者	0	0	0	0	0	0
転学科者の数(D)		0	0	0	0	0	0
ストレート在籍者数(E = B-C-D)		72	70	55	51	57	52
ストレート在籍率(E/A*100)		100%	100%	95%	93%	97%	87%
過年度在籍率(C/B*100)		0%	4%	7%	4%	10%	7%

(創薬科学科)

学年		1年	2年	3年	4年
入学時の学生数(A)		35	40	50	54
R5年4月時の在籍学生数(B)		41	44	47	52
過年度生の数(C)	留年による者	5	8	5	6
	休学による者	1	0	0	0
転学科者の数(D)		0	0	0	0
ストレート在籍者数(E = B-C-D)		35	36	42	46
ストレート在籍率(E/A*100)		100%	90%	84%	85%
過年度在籍率(C/B*100)		15%	18%	11%	12%

【表2-2】H30年度～R4年度における学年別進級率

(薬学科)

		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
1年次	在籍者数	64	61	56	60	73
	休学者数	1(但し進級)	1	0	0	0
	退学者数	0	1	0	0	1
	留年者数	2	0	2	3	0
	進級率	97%	98%	96%	95%	99%
2年次	在籍者数	54	62	60	54	57
	休学者数	0	0	0	0	0
	退学者数	0	1	0	0	0
	留年者数	0	1	0	0	1
	進級率	100%	97%	100%	100%	98%
3年次	在籍者数	57	56	60	65	55
	休学者数	0	0	1	0	0
	退学者数	0	0	0	1	0
	留年者数	2	0	4	1	3
	進級率	96%	100%	92%	97%	95%
4年次	在籍者数	60(※)	61	65	57	64
	休学者数	3	7	1	0	1
	退学者数	1	0	1	0	0
	留年者数	3	▲4	1	1	0
	進級率	88%	82%	91%	98%	98%
5年次	在籍者数	56	55	51	63	56
	休学者数	1	0	1	0	0
	退学者数	0	0	0	0	0
	留年者数	1	1	0	0	0
	進級率	96%	98%	98%	100%	100%

※ 創薬→薬の転学科1名を含む。

▲ うち2名は年度限りで創薬へ転学科

在籍者数は当該年度始め、休学、退学、留年者数は当該年度末の数値

(創薬科学科)

		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
1年次	在籍者数	56	59	59	57	47
	休学者数	0	0	0	0	1
	退学者数	4	2	1	1	2
	留年者数	4	5	7	7	5
	進級率	86%	88%	86%	86%	83%
2年次	在籍者数	56	50	56	54	53
	休学者数	0	1	0	2	0
	退学者数	2	1	2	1	1
	留年者数	2	3	3	2	5
	進級率	93%	90%	91%	91%	89%
3年次	在籍者数	51	52	48	53	53
	休学者数	0	0	2(但し進級)	1(但し進級)	0
	退学者数	0	1	1	1	1
	留年者数	0	3	2	4	1
	進級率	100%	92%	94%	91%	96%

在籍者数は当該年度始め、休学、退学、留年者数は当該年度末の数値

【表2-3】H30年度～R4年度における卒業状況

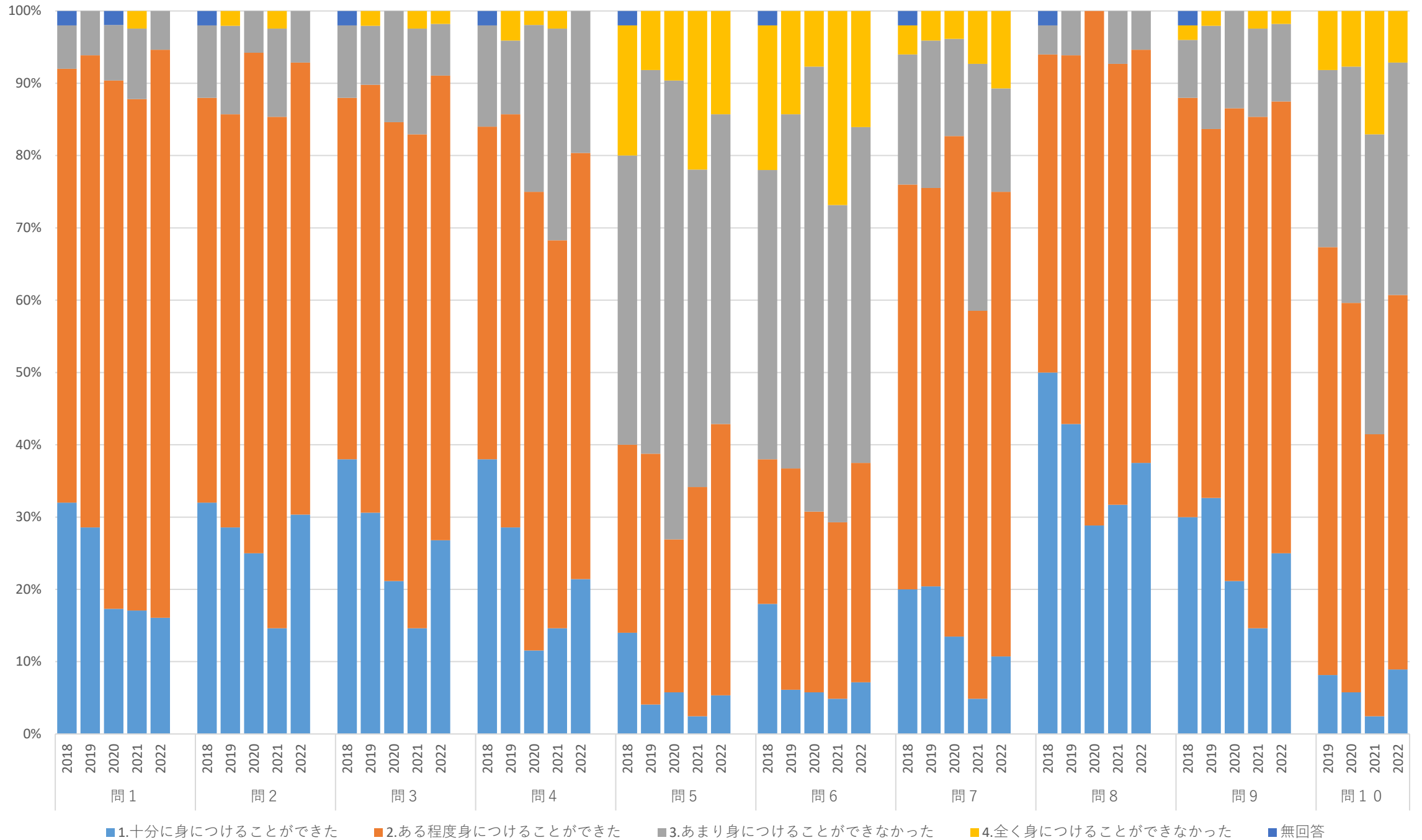
(薬学科)

		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
6年次生(年度末)の在籍学生数(A)		55	54	54	50	63
卒業者数(B)		55	54	54	50	63
卒業率(B/A*100)		100%	100%	100%	100%	100%
卒業までに要した年数	6年(C)	50	51	47	46	50
	7年	5	2	5	3	6
	8年	0	1	0	0	4
	9年以上	0	0	2	1	3
6年次生(C)が入学した年度の実入学者数(D)		59	60	56	55	57
ストレート卒業率(C/D*100)		85%	85%	84%	84%	88%

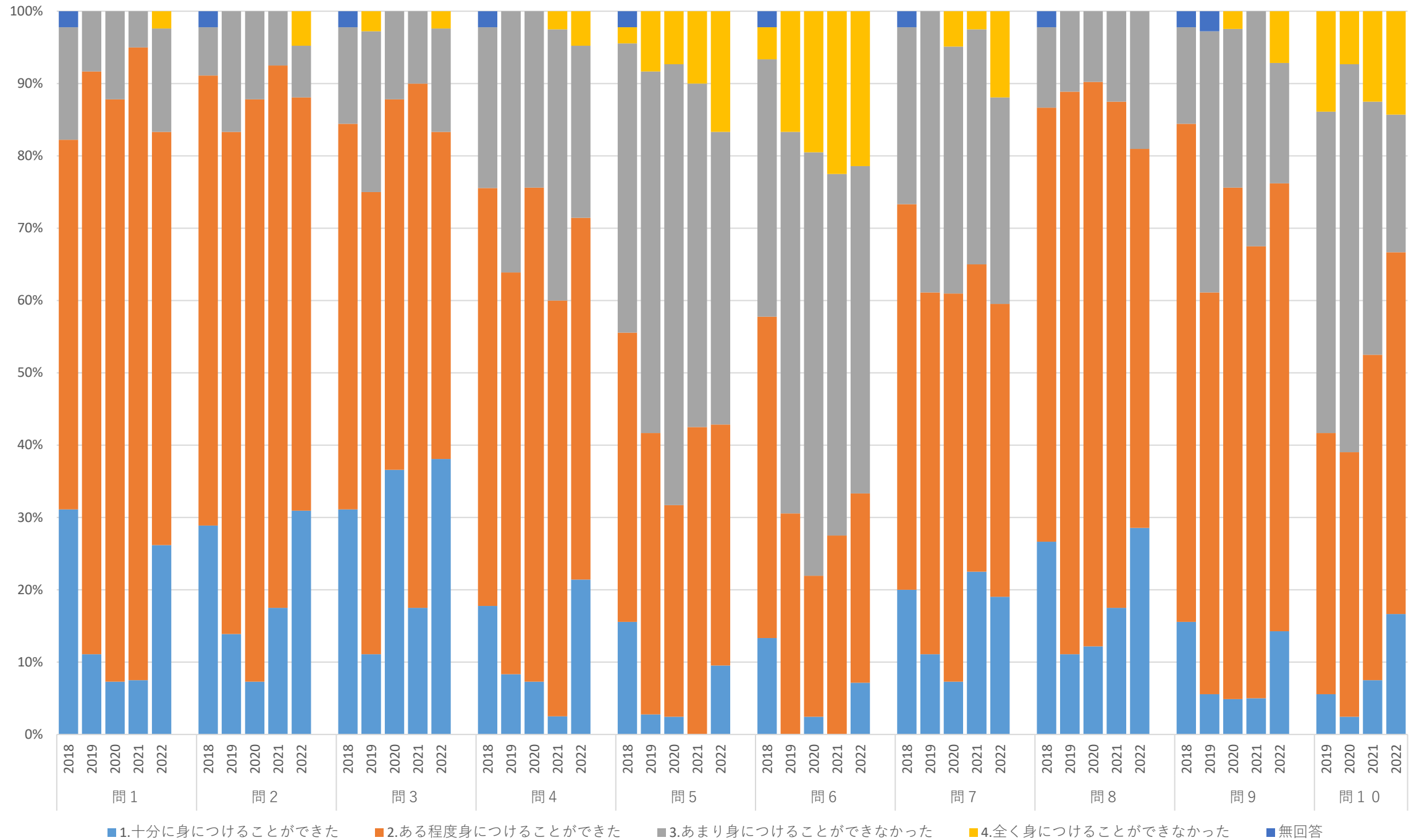
(創薬科学科)

		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
4年次生(年度末)の在籍学生数(A)		57	51	49	45	51
卒業者数(B)		56	50	49	42	50
卒業率(B/A*100)		98%	98%	100%	93%	98%
卒業までに要した年数	4年(C)	47	45	42	41	46
	5年	4	4	4	1	3
	6年	4	0	1	0	1
	7年以上	1	1	2	0	0
4年次生(C)が入学した年度の実入学者数(D)		54	54	52	51	55
ストレート卒業率(C/D*100)		87%	83%	81%	80%	84%

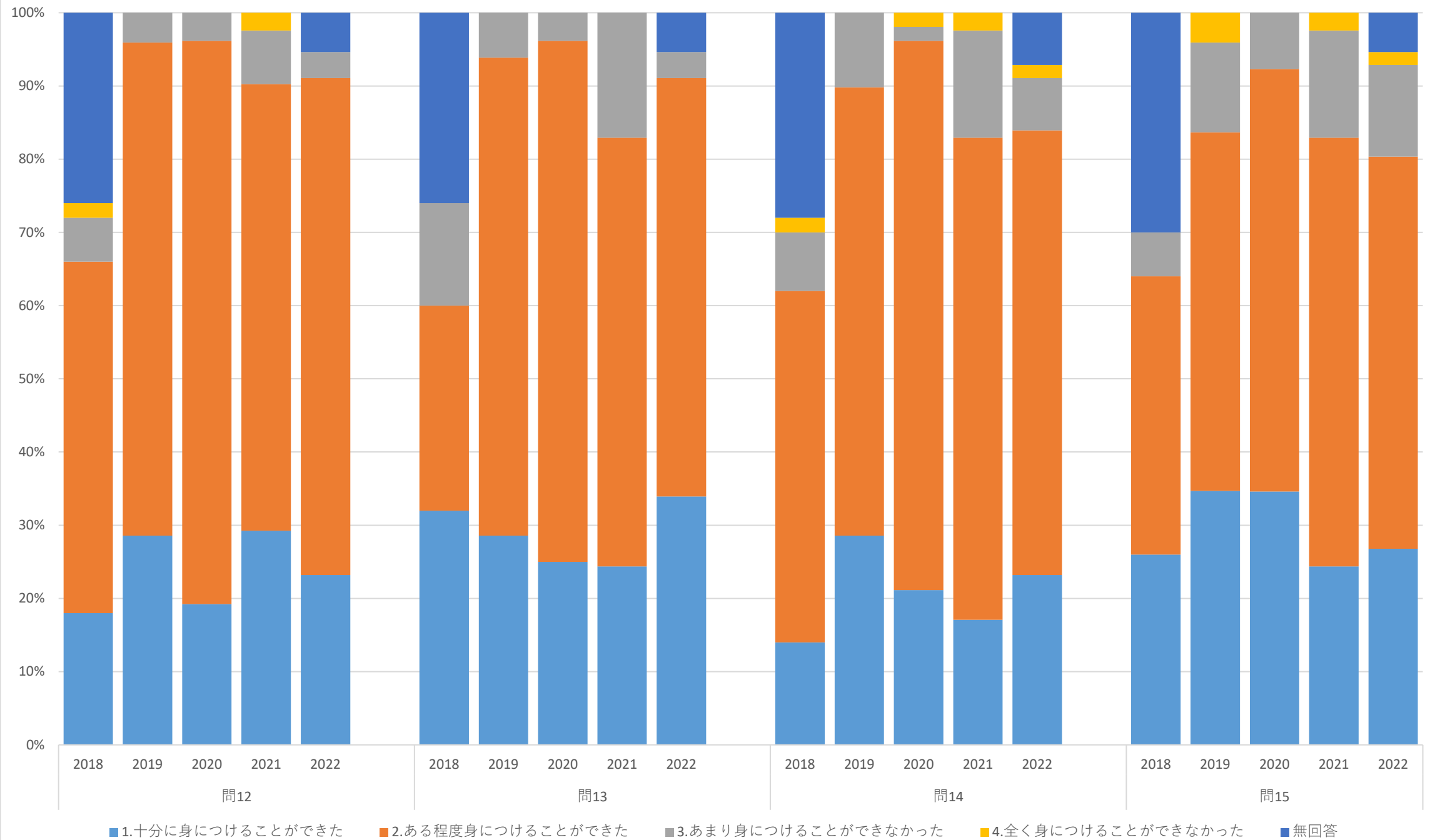
【薬学科】卒業時アンケート（全学項目）結果推移



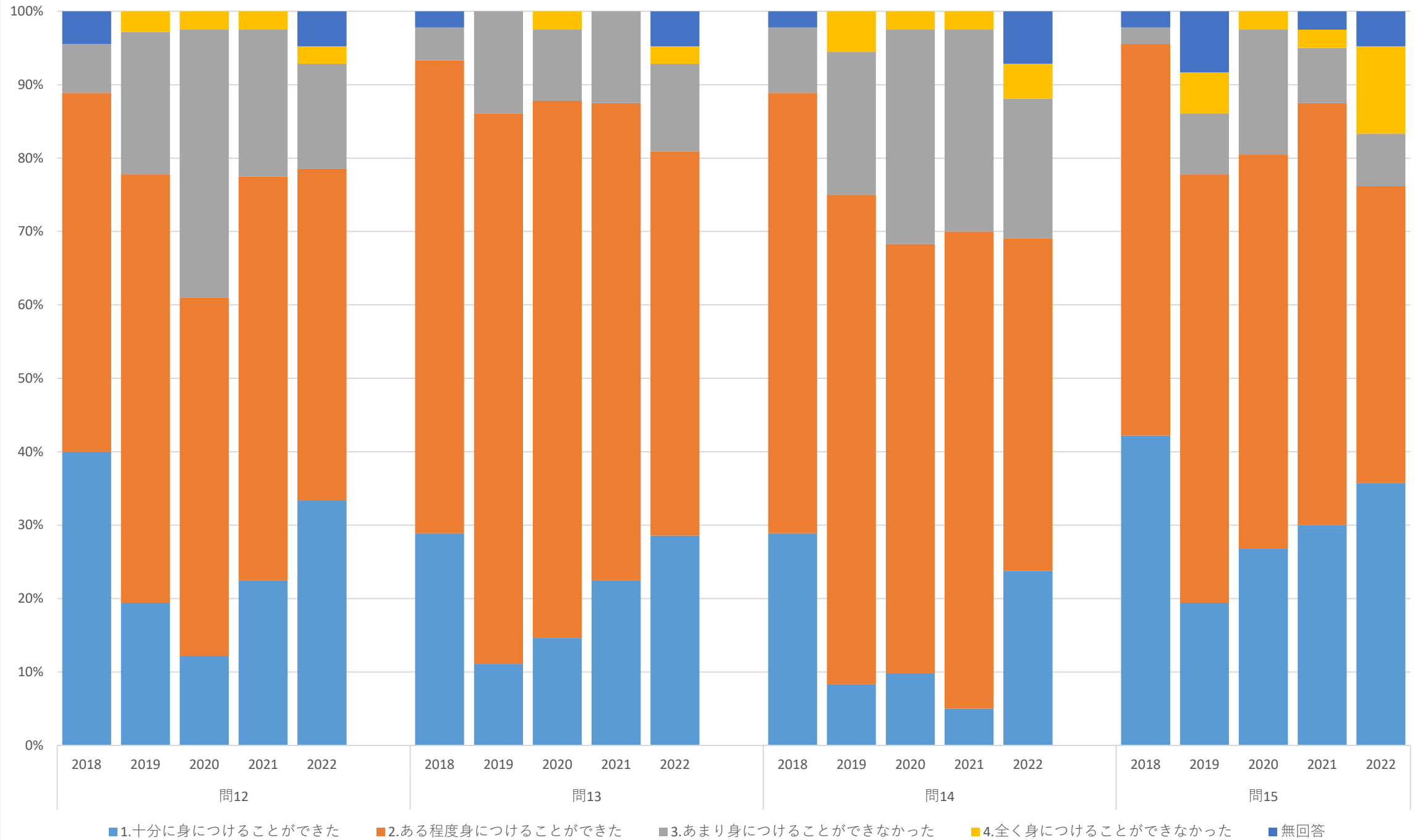
【創薬科学科】卒業時アンケート（全学項目）結果推移



【薬学科】卒業時アンケート（独自項目）結果推移



【創薬科学科】卒業時アンケート（独自項目）結果推移



科目の評価点 = $GP \times \text{科目の単位数} \times \text{重み付け係数}$

科目の単位数 × 重み付け係数（全専門科目）

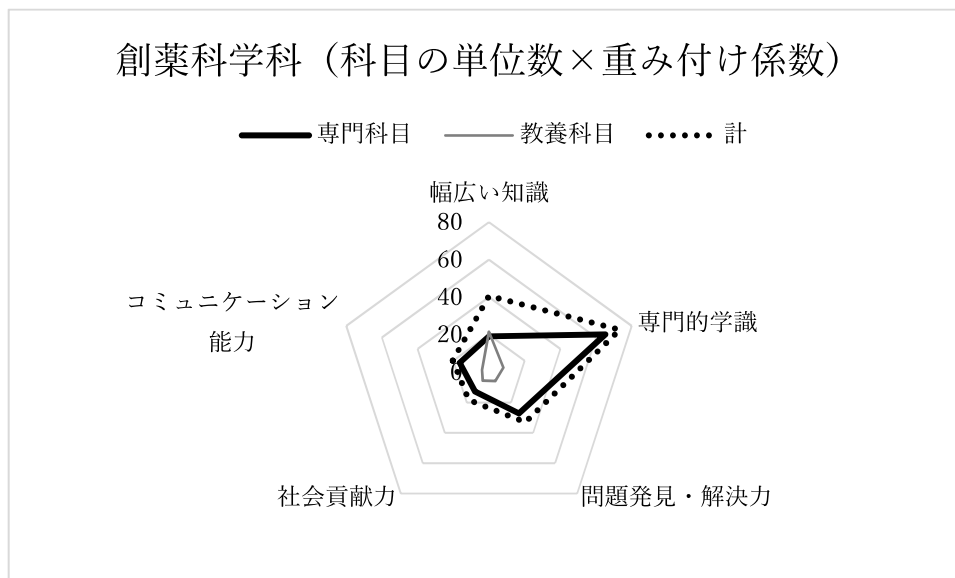
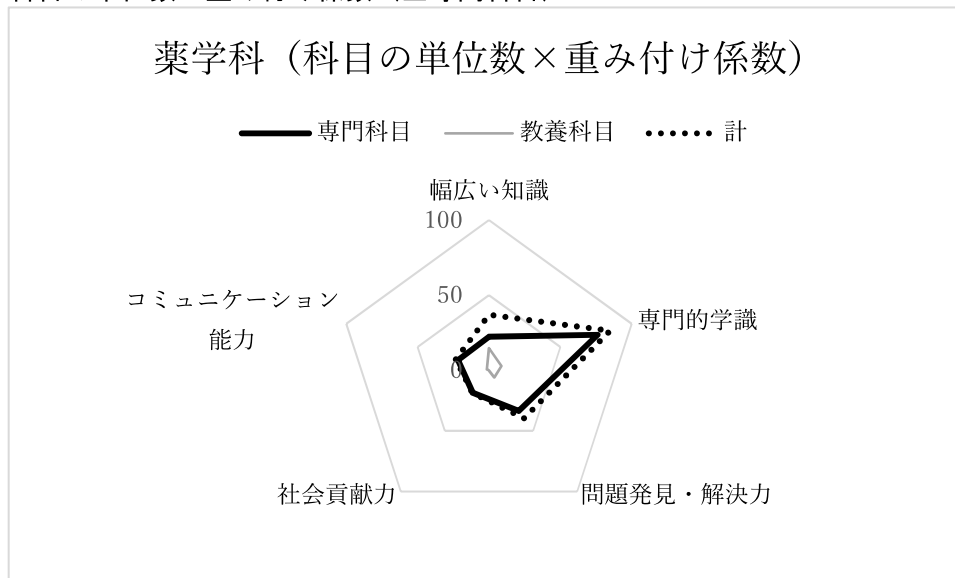


図 6

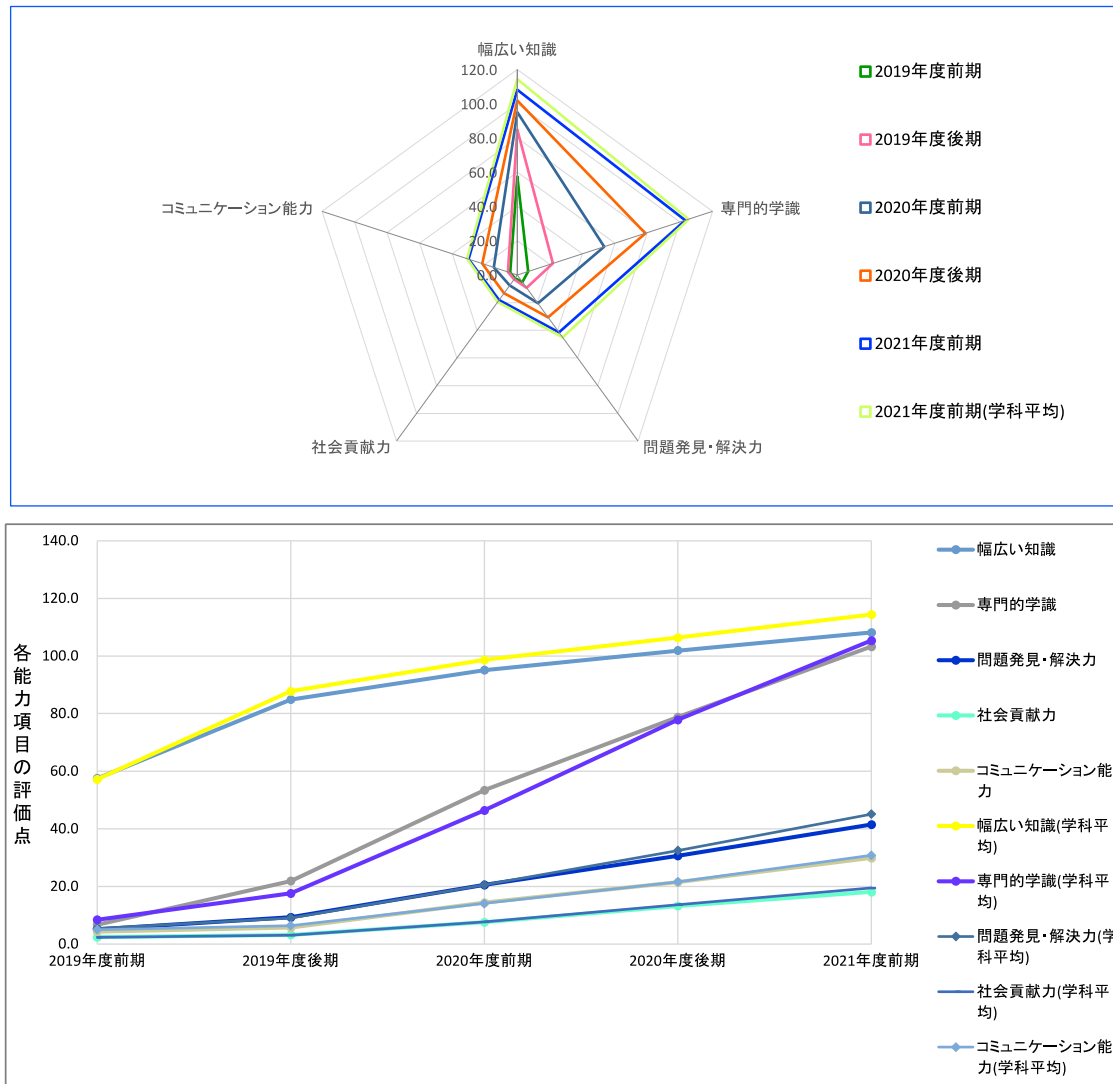
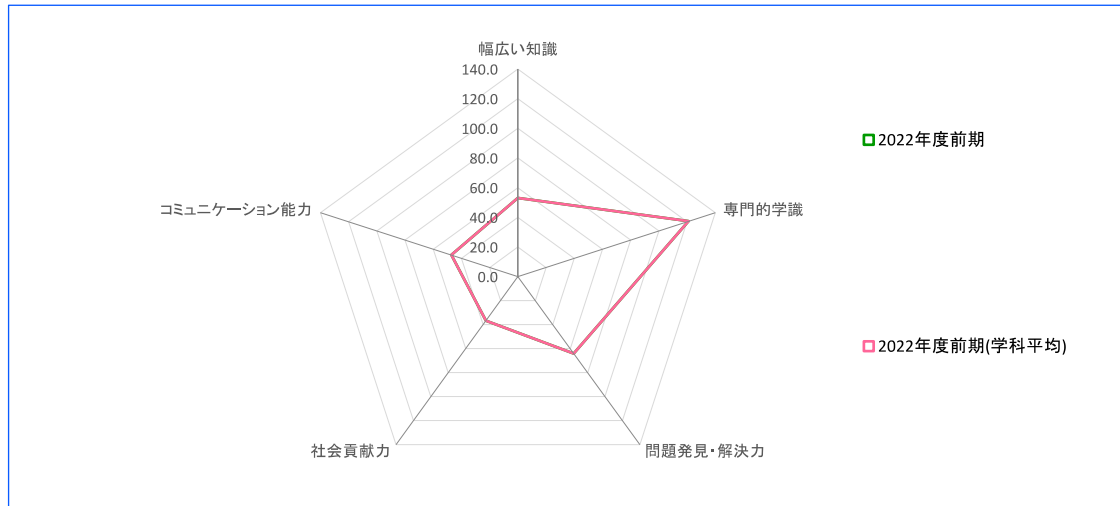


図 7

薬学科



創薬科学科

